

子どもに放課後の居場所

光と愛「育成支援事業」

津のNPO「陽だまり」に助成

子どもの健全育成に取り組み団体を支援する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」で今年度、県内から津市のNPO法人「陽だまり」が選ばれた。週2回程度、子どもたちに放課後の居場所を提供しており、事業団からの助成金10万円は学習支援のための参考書購入費や施設の修繕費などに役立てる。福井きわ子代表(71)は「子どもたちが夢を失わず育っていきけるような場所にした」と語った。

(阪本祐理子)

「ただいま」。17日午後2時半過ぎ、津市の住宅街にある「陽だまり」子どもほっとハウス」に小学校の授業を終えた子どもたちが駆け込んできた。玄関脇の壁にランドセルを掛けた子ども

たちに、福井さんやボランティアスタッフが「汗かいているけど大丈夫? きょうはどんな宿題があるの?」と声を掛けた。子どもたちはランドセルからドリルを取り出し、机

の上に広げた。漢字ドリルに子どもたちが取り組んでいると、スタッフが「書き順を守って書いてみて」とアドバイスをしていた。

「(午後)3時半までに宿題を終わらせておやつを食べよう」。福井さんがこう呼びかけると、この日集まった小学2年生から5年生の児童6人に笑顔が広がった。

福井さんは2023年、古びた一軒家を借りて3か月かけてリフォームした。同年9月にNPOを設立し、地域の子どもたちを支援するため、「陽だまり」子どもほっとハウス」で週2回程度、年間約110日にわたって放課後の居場所を提供している。

自身の子育てが一段落した福井さんは04年から18年間、地域の子どもや子育て家庭の相談に乗り、手助け

をする主任児童委員を続けた。中には、経済的に学童保育に通えない子どもや複雑な事情を抱え、家庭内に居場所がない子どもたちもいた。

「そういった子どもたちが気軽に訪れられる場所を作ろうという思いが強まった」と振り返る。現在は、小学校教諭の経験を持つボランティアスタッフが約10人と子どもたちの成長を見守っている。

県の補助金や社会福祉団体から食材の寄付を受けているなどして運営を続けている。スタッフが米を持ち寄り、おにぎりやのり巻きも振る舞う。昨今の物価高騰で、運営状況は厳しさを増しているが、福井さんは「親の帰宅が遅くても大丈夫なように、おなかがいっぱいになるようにしている」と手を抜くことはない。

集まる子どもたちも小学生から高校生までの約15人に増えた。助成金は、学習支援のための参考書や施設の修繕費に充てるといふ。福井さんは「陽だまりは狭くて小さいけれど、子どもたちの居場所として続けていきたい。子どもたちの笑顔が原動力」とほほえんだ。



おやつを食べる子どもたちと話す福井さん(26日、津市で)

伏見の子ども食堂 運営助成 光と愛の事業団

読売光と愛の事業団（東京）の今年度の子ども育成支援事業の助成先として、府内からは伏見区で子ども食堂を運営するNPO法人「HOPE300」が選ばれた。理事長の姜義馨さん（61）は、「日本と地域への恩返し」と子ども食堂の取り組みに力を入れる。

NPO 週3回、留学生ら協力

HOPE300は2013年に設立。韓国出身で京都宣教会（伏見区）の牧師でもある姜理事長が、留学生の交流の場として始めた。「励まし合うだけでなく、次のステップとして地



姜理事長（右）と子ひつじ子ども食堂のスタッフ（伏見区で）

して過ごせる場所や温かい食事を提供することで「私を牧師として導いてくれた日本に恩返ししたい」と話す。

のほか、約10人の留学生がボランティアで運営にあたり、1週間で約30人が利用する。「地域の方々や企業とも協力し合い、いつの日か毎日開催したい」と、夢に向かって奔走している。

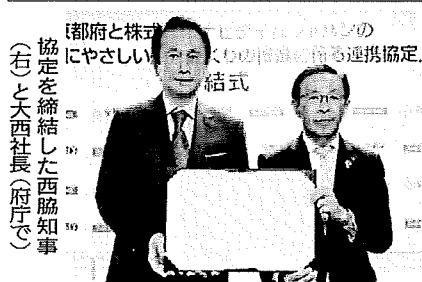
子育て応援施設 経路案内

府「まもつぶ」、ナビタイム連携

府と経路検索大手「ナビタイムジャパン」（東京）は、子育て世帯の外出支援などに関する連携協定を結んだ。子育てに便利な施設の情報を提供する府のサイト「まもつぶ」と、ナビタイムのアプリ「NAVITIME for Baby」（有料）を提供しており、それぞれの検索機能を掛け合わせた。

まもつぶで目的地を設定するとアプリに移行する仕組みで、無料で利用できる。

5日の締結式で、西脇知事は「お出かけ時の障壁や心理的負担を軽減できれば」とし、ナビタイムジャパンの大西啓介社長は「広く使ってもらい、京都の子育てが楽しいと感じてもらいたい」としている。



協定を締結した西脇知事（右）と大西社長（府庁で）

(第3種郵便物認可)

2025年(令和7年)9月25日(木曜日)

言説

賞

愛情弁当で親子支える

天王寺・子ども食堂ひなた

子どもの健全育成に取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」の助成先に府内からは今年度、大阪市天王寺区で活動している「子ども食堂ひなた」が選ばれた。(山根彩花)

「子ども食堂ひなた」は、さんは「愛情を込めた弁当代表の黒田精平さん(63)を通じて、孤立しがちな家庭と、妻の日出美さん(63)らに『いざという時に頼れる約10人のスタッフが、シン場所がある』と感じてもらい、グルマザーの家庭などに月1回、弁当150個を200円で提供している。黒田 エビフライや肉団子に野菜

1回、弁当150個を200円で提供している。黒田 エビフライや肉団子に野菜



「子ども食堂ひなた」を運営する黒田さん夫妻(大阪市天王寺区)

今年度 光と愛の事業団 助成団体に

のおかずを加えて栄養にも気を配り、販売日にはあつという間になくなる人気ぶりだ。

黒田さん夫妻は約10年前から事情があつて親と暮らせない子どもたちを里親として受け入れ、現在はファミリーホームを営んでいる。幼い頃に偏った食生活を送った子どもが多いと感じ、コロナ禍で孤立や貧困が進んだ2021年に「食を通じて親子を支えたい」と子ども食堂を開設した。

当初は弁当50個でスタートしたが即完売し、次第に数を増やしていった。「思った以上に困っている家庭が多いことに気づいた」と黒田さん。材料費は自腹で賄っていたが、現在は企業や支援団体からの食材の寄付にも頼る。事業団の助成金30万円で冷蔵庫を買い替え、弁当の取り置きや、より多くの食材の保存ができるようになるという。

今後は弁当の提供だけでなく、ファミリーホームに足を運んでもらい、親子に料理を振る舞うことを目指している。黒田さんは「地域のつながりを強め、子どもたちの居場所も作ってきたい」と話す。

子どもの無料塾運営助成

読売光と愛の事業団の今年度の「子ども育成支援事業」の助成先に、県内からは経済的理由で塾に通えない小中学生らに無料の学習支援を行っている「TEAR DROPS」(神戸市西区)が選ばれた。助成金は教材費などにあてるとい

う。代表を務める児玉祐葵さん(25)は学生時代、学生団体で人に教えたり、人をまとめたりした経験から教育の道を志し、高校時代の友人と無料の学習支援を行う団体を2021年1月に設立した。

悩みを抱える人たちとS

光と愛の事業団 今年度

西区の団体「相談できる存在に」



「子どもたちが相談しやすい存在になりたい」と話す児玉さん(神戸市西区で)

NS上で雑談したり、夏休みの小学生が勉強できる場を作ったりすることから活

動を開始。現在はフリースクールや高校などで理科を教える傍ら、月2回、神戸

市西区の商業施設内で無料塾を開いている。講師は高校生や大学生などのボランティアで、小中学生らが対象。午後1時〜5時半、一緒に宿題をしたり、終わればボードゲームで遊んだりしている。

自分が子どもの頃、無料で勉強できる場所がなかったことから、勉強場所とともに、生きづらさや悩みを抱えている人たちの居場所を作りたいとの思いで活動を始めた。今では、たくさんの子どもたちが集まってくるようになり、人間関係の悩みも打ち明けてくれる。児玉さんは「ここに來たらこの人がいる、相談できる、と思ってもらえるような存在になりたい」と話し、付け加えた。「子ども

女性の犯罪被害防げ

県警神戸市などと意見交換

神戸市のマンションで住人女性が刺殺された事件を受け、県警は25日、女性の被害防止に関する意見交換会と護身術教室を県警本部で開いた。

意見交換会には県や神戸市、県防犯協会連合会などから計14人が出席。県警生活安全企画課の担当者から、昨年相談があったストーカー事案の約2割は相手との面識がないか不明だったというデータが示された。

護身術教室に35人参加



護身術を学

たちが悩みを持った時にはそれをすくい上げ、どの子も取り残さないでいられる

ような能力をもっと身につけていきたい」

子と大人心のとげ抜く

子どもの健全育成に取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」に今年度、県内から子ども食堂などを運営する高松市の団体「西宝町みんなの居場所」が選ばれた。代表の中山桜陽さん(43)は「地域全体で子育てをする環境を整えた」と力を込める。

(高見怜弥)



子どもたちと食事の準備をする中山さん(右、高松市で)

高松・「西宝町みんなの居場所」

中山さんは約10年前に自宅で書道教室を開設。落ち着いた姿勢が求められるものの、子どもたちはイライラしたり疲れたりした様子を見せ、稽古をしづらいことが多かったという。子どもの声に耳を傾ける中で、「学校や家庭で愚苦しさを感じている」と気付いた。「書道を教えるだけでなく、子どもの気持ちを吐き出せるような場所を作ろう」

こうして子ども食堂も開始。月4、5回ほどで、1食300円(税込み)で誰でも参加できる。毎回50人ほどが利用し、子どもらの要望を踏まえ、協力して唐揚げやカレーライスなどを作る。乳幼児から高齢者まで幅広い世代の市民らが食卓を囲む。地域住民らと交流を重ねる

今年度 光と愛の事業団 助成団体に

うちに、子どもたちの表情は柔らかくなり、笑顔が増えた。食材の買い出しや料理も担ってもらうことで自立性も養われ、気持ちを切り替えて書道に臨む子どもが増えたという。

中山さんはさらに課題を見つけた。「多人数が苦手な人の居場所や、話づらい内容も相談できる機会が必要だ」。今年8月から事前予約制の少人数イベント「ひとやすみ村」も開く。不登校やダウン症の子どもを持つ保護者らと協力。毎月、マッサージュや料理などのイベントを企画する。今回の助成は50万円。関連の費用に充当する予定だ。

中山さんは「とげとげしい親に子どもは話しかけない。子育ての悩みを打ち明けてもらうことで、少しでも気が休まれば」と語る。

電話やSNSで相談をしても、施設を訪ねられない人がいるという。解決に向け、新たな取り組みを思案する。「多くの人が関われば、できることも増え、多くの人の居場所になれる」と強調。一人でも多くの人に協力を呼びかけている。

子どもの健全育成に取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の今年度の「子ども育成支援事業」の助成先に、福津市の「どの子ども凸凹プロジェクト実行委員会」が選ばれた。同委員会は希望する子育て世帯に食料品を配布する活動を2020年から続けており、この費用として50万円が充てられる予定だ。代表の宮本裕子さん(58)は「支援を基に子どもたちの栄養と精神的安心を支え、『困ったときはお互いさま』の文化を地域に広げていきたい」と話している。

(興膳邦史)

同委員会は19年、子どもの支援に関わる市民の団体が情報交換する「福津市児童支援連携会議」を母体に発足。子育て世帯を対象に、子どもの成長との向き合い方を専門家や行政担当者らの講演を通じて学ぶ連続講座を開くなどしてきた。

活動を通じて、ひとり親世帯などの経済的な苦境を知り、児童扶養手当をはじめ公的支援を受ける世帯を中心に、寄付を受けた米やレトルト食品などの配布を月1回の頻度で始めた。登

光と愛の事業団

子育て支援団体に助成

「お互いさま」の心で食料配布

どの子ども凸凹プロジェクト実行委



小分けした米をテーブルに置き、配布の準備をするボランティアら

録した世帯に市内の拠点施設まで受け取りに来てもらっているが、車を持たないなどの理由で難しい場合は、有志のボランティアが自宅へ届けている。

最近の登録世帯数は約70で推移。登録世帯には配布ボランティアへの参加も呼びかけている。「『お互いさま』の意識を持ってもらい、共に活動する仲間としての関係を築いていきたい」との願いからだ。

9月28日の配布日には約20人のボランティアが集まり、米を計量して袋に小分けしたり、調味料や卵などをテーブルに並べたりして配布の準備をした。登録世帯の小学生女兒も母親と一緒に参加し、「忙しいけれど、お手伝いは好きなので楽しい」と笑顔を見せた。母親は「この場合は人の温かさをすごく感じる」と話した。

宮本さんは「支援をする、されるという一方の関係は作りたくない。それぞれができることを、できる範囲でやる。そうして得られる人と人のつながりを大切にしていきたい」と語る。

学習支援 市民団体に助成

光と愛の事業団

宮崎 子どもの居場所づくり

読売光と愛の事業団の今年度の「子ども育成支援事業」の助成先に、県内から宮崎市の市民団体「ラーニングパーク」が選ばれた。元教師のメンバーたちは学習支援を中心に放課後の子どもたちの居場所づくりを続けており、永友雅子代表(70)は「学習に困っている子どもたちのお手伝いにこれからも取り組んでいく」と話している。

(石原拓海)

元教員で運営

子ども育成支援事業は、子どもの健全育成に取り組み団体を資金援助するもので、今年度は全国で17団体が助成対象に選ばれた。

ラーニングパークは、元中学理科教員の永友代表が中心となり、2017年に発足。小中高校の元教員8人が所属する。

宮崎市源藤町の高齢者施設の一室を借り、そこを主な拠点にして放課後、宿題などに取り組む小中学生への学習支援教室を有償で行っている。「宿題を自宅でするのは難しい」「勉強で苦手なところがある」とい

ラーニングパークが開く学習支援教室で学習に取り組む子どもら(宮崎市で)



小林西 13季ぶりV 九州高校野球県予選



優勝を決めマウンドに集まる小林西の選手たち

った児童生徒を対象としており、現在25人ほどが利用している。学校に行きづらいつつ子どもたちの受け入れにも力を入れ、読書活動の時間も設けている。

「子どもたち一人一人に合わせ、どうやったら効率よく教えられるか考え、教材選びなどをする。あくまで学校の学習の補充として

学習の習慣づけを行っている」と永友代表。計算ドリルや漢字ドリルといった学校の宿題で子どもがわからないところをサポートするほか、独自の教材を用いた指導も行う。子どもたちの学習の進捗状況は一人一人ファイルで管理し、メンバーで情報を共有する。半年ほど通っているという住吉南小2年の西内千尋さんは「漢字が好きで、たくさん正解するとうれしい。絵本を読む時間も楽し

時打で2点を追加するなど勝負強かった。先発・川原純季投手ら登板した投手3人の好投も光った。

九州大会の結果は来春の選抜大会の出場校を決める参考となる。小林西の庄司主将は「先制点を取って自分たちのリズムで試合を進め、優勝したい」、宮崎学園の古留佑主将は「もっと打撃を磨き、選抜出場を決めたい」と語った。

この日は3位決定戦もあり、日南学園が11-4で宮崎日大に勝った。

第157回九州地区高校野球大会県予選は30日、ひなたサンマリノスタジアム

目の優勝を果たした。両校は25日から宮崎市で行われる九州大会に出場する。

▽決勝
宮崎学園0000000010-1